

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	薬剤師によるプロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)の運用開始前後における検査項目順守率の変化
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	愛媛大学医学部附属病院薬剤部 薬剤部長 田中守
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日
対象となる方	2021 年 7 月から 2023 年 2 月に愛媛大学医学部附属病院を受診され、外来化学療法室にて治療を実施した患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 年齢、性別、診療科、癌種、治療薬剤、検査件数 (①HBV-DNA 定量、②尿蛋白/クレアチニン比、③血清マグネシウム値)、検査をオーダーした職種、検査項目順守率
研究の概要 (目的・方法)	愛媛大学医学部附属病院 (以下、当院) 薬剤部では 2022 年 2 月以降、外来化学療法室にて治療を受けられる患者さんを対象に PBPM (Protocol Based Pharmacotherapy Management) を開始しました。PBPM とは、「事前に医師や薬剤師などが作成・合意したプロトコールに従って、薬剤師が薬学的知識・技能を活用して薬物治療を実施する」ことで、現在 3 種類あります。いずれもがん薬物療法を安全に行うために必要な検査を、医師に代わって薬剤師がオーダーすることで、医師の業務負担を軽減しながら患者さんに対して安心・安全な治療を提供することが目的です。電子カルテを用いて、PBPM の運用開始前後における検査項目 (①HBV-DNA 定量、②尿蛋白/クレアチニン比、③血清マグネシウム値) の順守率、薬剤師による検査オーダー割合を調査します。

	以下に PBPM の内容を記載しておりますので、詳細がお知りになりたい方は当院薬剤部までお問合せください。 ①B 型肝炎キャリア／既往感染患者が対象の B 型肝炎再活性化防止を目的とした HBV－DNA 定量のモニタリング ②抗 VEGF 抗体製剤／抗 VEGF 阻害薬（アバスチン、ベバシズマブ、サイラムザ、ザルトラップ）使用時の尿蛋白/クレアチニン比（UPC 比）の測定 ③抗 EGFR 抗体製剤（アービタックス、ベクティビックス）使用時の血清マグネシウム値測定
個人情報の保護 について	この研究で収集される情報は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院薬剤部 済川聡美 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5746